

2024年
No. 101
1月1日発行

国際こだいら



KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION (KIFA)

- 多文化理解講座 in English (アルメニア・バングラデシュ・ミャンマー)
- 世界の料理講座 (ベトナム) ほか



Instagram
KodairaLifeはこちら



仲町第二公園にて

KIFAが小平市民まつりに初出店！

10月15日(日)

KIFA 生活情報提供チームは、外国人が小平で生活するのに必要な情報を提供することを目的としたボランティアグループです。『多文化カフェ』で外国人市民と交流をはかったり、有志メンバーが運営するInstagram『小平ライフ』で英語による生活情報を発信したりしています。ところがKIFAで待っているだけでは外国人市民はなかなかやって来ない、それなら自分たちで外に出向いてみよう！と小平市民まつりに出店しました。

KIFAのブースには色とりどりのハッピを着たボランティアが待機して、興味を示した人や外国人に声をかけます。KIFAの活動や、看板に書いてある『小平ライフ』のQRコードの説明をしたり、『多文化カフェ』のチラシを渡したり。午前中は大雨で人出が少なかったため、大通りに出て10人ほどに声をかけたそうです。子ども連れの外国人に、小学校入学の

手続きなどで手伝うことが出来ると伝えたら、「いいわね。」と言って喜んでくれたそうです。緑色の『小平市国際交流協会』の旗を見て寄って来た日本人もいて、国際交流に興味を持っている親子や、子どもに国際体験をさせたいと話す親もいました。

当日の朝はどしゃ降りの雨で、テントを立てるのも一苦労だったそうですが、午後は晴れ間も出てすごい人出でした。その中で、ボランティア達の積極性が功を成して、KIFAの存在や活動を多くの人に知ってもらえたと実感できました。KIFAの活動に関心がある人や関心を持ちそうな人とつながるいい機会になったと思います。

生活情報提供チームは来年度も出店の予定。他ボランティアグループと連携してもっと良いものできないかと思案中のようです。





多文化理解講座 in English



毎年秋に開講される『多文化理解講座 in English』、今年は一橋大学の若い3人の研究者がそれぞれの国を紹介しました。

● 10月14日 バルダグチャン・イネサさん 【アルメニア】



アルメニア語、ロシア語、英語そして日本語が話せ、日本文化を研究する大学院生です。黒海とカスピ海に挟まれたコーカサス地方の内陸国。1991年ソ連邦より独立。人口約300万の小国ですが海外移民（ディアスポラ）が多く、アルメニア人は世界中で活躍しています。世界最古のキリスト教国。聖なる山アララトは首都エレバンからも見えます。アプリコット、ブドウ、ザクロなどの生産と加工が盛ん。プルプラクという地下水の水飲み場が全土にあり日本人にも人気だそうです。

第一次世界大戦時のオスマントルコによる虐殺の歴史や、独立後のアゼルバイジャンとの緊張関係などがありますが、自然と伝統を大切にしている平和な国です。

● 10月21日 ビラル・ホセインさん 【バングラデシュ】

元銀行員。現在、経済学の博士課程で研究中です。日本の半分以下の面積に人口1億7千万人の国。1971年まで東パキスタンでした。独立戦争では、数百万人の犠牲者を出しました。イスラム教の国でありながら、バングラデシュ独自の伝統文化が色濃く残っています。お米とカレーの国ですが、ビリヤニ（混ぜご飯の一種）が最高！

急成長する繊維産業のグリーンエコノミー化がビラルさんの研究課題だそうです。



● 10月28日 ケイ・ジン・ハインさん 【ミャンマー】



2019年一橋大学修士課程に留学。2021年に経済学修士を修了しましたが、2021年軍によるクーデターが起これり帰国を断念。幸い同大学の博士課程に進むことができ、教授の助手をしながら経済学の研究を続けています。

ミャンマーには135の民族がいて、1948年の独立以来、内戦とクーデターによる政情不安が続いています。

多民族国家ならではの様々な民族衣装、古い歴史を持つ仏教文化、雨期の始まりを知らせるパダウの花など、豊かな自然と文化を紹介。ナマズを出汁にしたスープ麺モヒンガーはミャンマーの伝統的な朝食です。うどんを連想しました。

ブレイクタイムにハインさんが一番気に入っている日本の歌を披露。なんと1960年代に流行った「お座敷小唄」です。ミャンマーの伝統的なメロディに似ているそうです。

2024年博士課程を卒業したらシンガポールかタイで研究職を続けたいと語るハインさんの表情は、ちょっと寂しそうでした。

若い研究者たちに明るい未来が来ますように。

多文化共生の句

今ひとつ
我が通訳のクオリティ
|| しかしながら ||
今ひとつ
通訳アプリその精度
大石隆一

みなが友
たのしみましょう
こだいらライブ
Kazu

教え合う
世界の国の
母の味
半々



世界の料理講座「ベトナム料理」

学園西町地域センター調理室



取材日:9月29日(金)

今回の世界の料理講座は、以前ちらしらずし講座に参加したベトナム出身のランさんが講師でした。『バインセオ』とデザート『チェー・クック・バイック』を作りました。参加者は、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科の学生さんや、韓国出身の方を含めた5名でした。



バインセオはベトナムのお好み焼きです。バインセオの粉にココナッツミルクと水を混ぜて生地を作り、薄く焼いた生地の上に炒めた海老や豚肉、青ネギ、モヤシをのせ半分に折りたたみます。生地が黄色いのは、卵が入っているのではなく、ウコンを色づけに使用しているためです。ベトナムでは健康に良いからとウコンの粉を水に混ぜて飲む人も多いのだそうです。またバインセオの粉が入っている袋について、「ベトナムパンケーキと表記されていますが、パンケーキとは違うのですよ」と強調されていました。



参加者の一人がベトナム旅行の際バインセオを食べなかったと言うので、「今日はぜひ味わってみてください」とランさん。矢継ぎ早に出てくる質問に参加者

の関心の高さが伺え、和やかではありながらも活気ある会話と手際良い作業が同時に進んでいきます。

ベトナムでは大きな鉄鍋で作るためサイズもかなり大きく、朝食に2枚くらい食べるのが一般的なのだとか。朝食は外で食べることが多いので、家庭でバインセオを作ることはほとんどないという話には、驚きの声があがっていました。参加者一人一人がバインセオを焼くのに挑戦する間、デザートで使うシロップや果物を用意していきます。

デザートのチェー・クック・バイックは、ミルク寒天のようなものにシロップや果物とスライスアーモンドを入れたものです。冷やし固めるのに4時間かかるので、今回は事前に用意しておいたものに、作ったシロップをかけることになりました。

初対面とは思えないほど楽しくおしゃべりをしながら、完成した料理を試食しました。韓国出身の参加者は、「チラシを見て申し込んだけど、楽しかったし友達もできて良かった。帰りにKIFAに登録します」と笑顔で話していました。このように、集まった方々がつながっていくことが大事だなど思いました。



【寄稿文】 保育茶話会

10月21日(土)

保育グループボランティア:石澤幸信

保育グループは、子ども連れで日本語会話教室に来ている外国人の勉強中に、別室で子どもを預かるボランティアです。毎回かわいい子どもたちに癒されています。この日もどろぼうごっこや遊具のすべり台で元気いっぱいの子もたちと遊びました。いつもは教室が終わると、子どもたちを両親にお返しして終わりですが、この日は子どもの保護者や一人で教室に通っている外国人と一緒に、茶話会という形でいくつかのグループに分かれ、何気ない日常のおしゃべりをしました。

私のテーブルは中国人親子でした。もうすぐ2歳になるかわいい女の子とその両親。女の子は泣き虫で、保育で預かる時は親と離れるのが寂しくていつも泣いてばかり。でも今日は初めて泣かずに過ごすことが出来ました。それを茶話会で報告したところ、我が子の成長にお二人はとてもうれしそうでした。来年保育園に入れたいけれどなかなか入れないと聞いたので、近所



の保育園から選んで第4希望まで申込んだとのことでした。日本の『お受験』の事も誰かから聞いたようで、「日本では小学校に入るのに受験があるんですか？公立と私立はどちらがいいのですか？」など、早くも学校の事を心配していました。公立と私立、どちらがいいのか答えに苦しんでしまいました。

別のテーブルには、中国、台湾、ナイジェリア、ベトナムの方たちが参加していました。中国の方は、歯が痛くて歯医者に行き、何回か行ってクリーニングをしてもらったけれど、結局まだ歯が痛いと言っていました。日本語の勉強を始めたばかりで、うまく症状が伝えられなかったようです。「病院の日本語は難しいから、スマホの翻訳ツールを使った方がいいね」と話しました。

他にはそれぞれの朝食の話。米、パン、シリアルなど様々でしたが、ナイジェリアでは米も食べるそうです。ベトナムは消化がいいのでフォー（米粉の麺）を朝食に食べる人が多いとのこと。

学習者たちの茶話会の感想としては、いつもと違うクラスの人と話す機会がもててよかった、と言っていました。日本語会話教室に通っているだけあって、皆さん日本語が上手ですね。『が、の、を、に、へ、と、は、も、な、こそ、でも』の助詞など、どうやって理解習得しているのかいつも感心します。

令和5年度第3回『KIFA 連絡会』

取材日：9月2日（土）

『KIFA 連絡会』は、KIFA で活動している12のボランティアグループの幹事・副幹事、事務局のスタッフが集まって、グループにまたがる課題について話し合う会議です。学園西町地域センターの集会室で年に5回程度行われています。

今回の大きな議題の一つは、今年度の『KIFA のつどい』のあり方についてです。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったものの、KIFA が法人化した最初の年だったため、小規模な催しにしました。KIFA とつながりのある外国人を対象とし、各々のボランティアグループが知恵をしぼって、外国人が気軽に知識を身につける体験コーナーやクイズコーナー、子どもが楽しめる綿菓子やヨーヨー釣りなどがありました。

コロナが5類に移行したこともあり、以前のような一般市民向けのフェスティバルに戻したいという意見が上がっていました。しかし、各ボランティアグループが企画するのは難しいという声も多く、改めてKIFA のつどいを開催するか否か、立ち戻って考えることになりました。そして、グループ毎にまとめた意見を聞いたところ、グループ自体は企画できないけれども、他グループが何か行うならお手伝いしますという意見が多かった

です。結果的には、主体となって企画運営する会がないと、今年の『KIFA のつどい』の開催が難しいとのことでした。したがって、フェスティバルのような国際交流イベントを行うよりも、まずは各グループの活動を充実させることが優先だという結論に至りました。

そこで事務局からの提案として、もしグループとして何か特別な活動をするなら、他グループと協力して行うことも可能だという話が出ました。例えば、日本語会話教室の授業の後で、災害時対応グループが、災害時の知識を学ぶクイズイベントを行えば、日本語会話教室の受講生が参加しやすくなります。

皆が時間をかけて話し合う中で、各々が丁寧に考えて行動したいという気持ちが伝わってきました。『国際交流』『多文化共生』というKIFA の基本に戻って、各ボランティアが何をすべきなのか、何をしたいのかを考え直す時期なのだと思います。



一緒に紙面を作る仲間を募集しています

メンバー大募集中です！本誌「国際こだいら」に載せる記事を考えて、取材したり、写真を撮影し、紙面のデザインを考え、文章の校正をしたりします。あなたの言葉で伝えてみませんか？

KIFA のイベントや講座、ボランティア活動を取材することが多いので、多文化共生について理解が深まり、世界が広がります。取材を通じて外国の方との出会いもあります。

次号102号の内容を考えるミーティングがあります。よかったら見学しませんか？文章が上手である必要はありません。外国出身の方も大歓迎！日本語力アップになります。活動の詳細については、Web サイトをご覧ください。

102号企画会議 1月10日（水）午前10時～12時

これからの行事予定

- ◎多文化カフェ 1月21日（日）・3月10日（日）
- ◎こだいら市民駅伝大会 KIFA チーム参加 2月4日（日）
- ◎小学校入学準備教室 2月3日・10日・17日・24日 土曜日（全4回）
- ◎小学校入学相談会 3月2日（土）
- ◎理事会 3月11日（月）

詳しくは、Web サイトまたはミニレターでご確認ください。



発行日 2024年1月1日
発行 一般社団法人
小平市国際交流協会
編集 機関紙グループ
〒187-0045
小平市学園西町2-12-22
学園西町地域センター 3階
TEL. 042-342-4488
FAX. 042-347-3003
Eメール: info@kifa-tokyo.jp

編集後記

昨年5月に新型コロナウイルスが5類に移行され、コロナ前の生活が戻ってきています。コロナ禍では機関紙会議も、マスクを着用し、一斉に前のスクリーンを向いて原稿を確認していました。今は机をロの字にくっつけて和気あいあいと機関紙作りを楽しんでいます。出身や、年代、嗜好が違えばスタイルも違います。お互いの知識や経験を生かして機関紙を作る楽しさ。仲間を大募集中です。

(K.H.)

